

## 推進校別事業実績報告書

### ＜取組のポイント＞

- めざす生徒像を「自律性を身につけた生徒」「高い規範意識をもった生徒」「人権尊重意識を身につけた生徒」と定め、そうした姿を支える道德性を高めるために、多くの取組を継続して行った。
- 要の時間である道德の時間の指導の充実を図る。（道德授業研究会の実施、公開授業の機会を生かした重点的な指導と様々な創意工夫の取組、道德の授業に関するの事前・事後検討会）
- 学校行事や総合的な学習の時間の学習を生かす。（合唱コンクールの取組、人権週間の取組、赤ちゃん抱っこを核とした命の学習、職場体験学習、園児との交流学习等を生かした取組）
- 校舎内の環境面の工夫、家庭や地域への広報活動の実施。（掲示の工夫、道德標語の作成、ホームページや便りによる広報活動）
- 生徒の主体的・自治的な活動の活性化を図る。（生徒会活動や委員会活動の充実）

### ＜成果のポイント＞

- 道德教育推進のために、校長が道德教育の方針を示し、道德教育推進教師を中心にして全教員が協力していく体制が構築された。
- 学習指導過程の創意工夫のあり方について研修が深まり、道德の時間の指導力の向上と意欲的な取組につながった。
- 学校行事等を生かした取組を全校的に進めることにより、全教師が共通の課題意識をもち、効果的に道德性をはぐくむことができた。
- 掲示の工夫や道德標語の作成等の活動を通して、本校の重点である自律性等の道德性について、生徒自身が深く考えることができた。
- ホームページや便りにより、学校の道德教育に対する理解と関心を高めることができた。
- 生徒の意識調査から、道德の時間についてのイメージやめざす生徒像を支える心情面の高まりについて、望ましい方向にあることが分かった。

## 1 推進校の概要等

推進地域名	福井県小浜市			
学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
おばま 小浜市立小浜第二中学校	おばまだいに 福井県小浜市 後瀬町 8 番 10 号	0770- 52-2918	566 名	センター校

## 2 研究課題

- ① 自立心や自律性，生命を尊重する心をはぐくむ道德教育
- ② 善悪の判断，きまりの尊重などの規範意識をはぐくむ道德教育
- ⑦ 人間としての在り方生き方の自覚を深める道德教育
- ⑧ 多様な道德教育用教材の選択・開発とその効果的な活用
- ⑩ 特別活動における実践活動や体験活動などにおける道德的実践の工夫
- ⑬ 家庭や地域等との連携による一体的な推進の在り方

## 3 研究主題とその設定理由

(1) 研究主題 「心豊かで、確かな学力を身につけた生徒の育成」

(2) 設定理由

本校生徒の道德性にかかわる実態として、毎年実施している「いじめに関するアンケート調査」では、「どんな理由があっても、いじめは絶対にいけないことだ」という意見に対して、「どちらとも言えない」「そう思わない」との回答が 45

%に達している。この数値は徐々にではあるが増加する傾向にあり、生徒の人権尊重意識が薄らいできている。また、自分で考え、判断し、正しく行動しようとする力が弱く、自己中心的な行動をとりがちである。間違っただけをしたときに「みんながしているから」「誰々に言われたから」など付和雷同したり責任転嫁したりするような言動も見受けられる。こうした実態を踏まえ、「自律性を身につけた生徒」「高い規範意識をもった生徒」「人権尊重意識を身につけた生徒」をめざす生徒像と定め、そうした姿を支える豊かな道徳性をはぐくみたいと考え、本研究主題を設定した。

#### 4 研究の概要及び特色

新学習指導要領においては道徳の時間そのものに、より魅力があり弾力的な指導が求められている。道徳の時間の指導で配慮すべきこととして以下のことが述べられている。

- ① 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
- ② 総合的な学習の時間や体験活動との関連
- ③ 教材の開発とその活用
- ④ 言語活動の充実
- ⑤ 情報モラルへの配慮

これらの項目を考慮し、本校が設定した研究主題を達成するために2年間にわたって実践してきたことを述べる。

##### ① 研究推進のための組織作り

道徳教育を推進していくために、協力体制を整備することが明示された。(解説編 P.64) これに従って、本校においても校長が道徳教育の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心として全教員が協力していく体制を構築した。

##### ② 校内研修の充実化(先進校視察、模範授業参加、公開授業参観、講演会参加など)

我々の道徳授業力の向上と最先端の道徳教育の在り方について研修を深めるために、先進校視察を行ったり、模範授業を依頼した。また、全職員が研修を深めるために同一の書籍を購読し、レポートにまとめた。

##### ③ 時間割の編成(道徳の授業を全学級同一時限に実施)

学級が水曜4限に道徳の授業を、副担任が授業を参観した。また、授業前、授業後には道徳の授業についての検討会を学年ごとに開催した。授業展開についてお互いに情報交換したり、ワーシートの紹介ができ、より深い授業をするために大変有効であった。

##### ④ 体験活動の充実(「命 生命尊重」を中心に据えた総合的な学習の時間) 研究課題①, ⑩

総合的な学習の時間のテーマを「人との関わりを通して、生き方を考えよう」と設定し、各学年における活動を具体的に設定した。3年間を通して各世代と関わりながら、生命尊重を基盤とした豊かな人間性の育成および自ら学び自ら行動する力の育成をめざしている。1年生は「命の学習」、「赤ちゃんだっこ体験」、2年生は「職場体験」、「修学旅行」、3年生は「園児との交流」、「キャリア教育」、「将来を見つめて」といった取り組みを行った。そして、これらの活動の関連表を作成し、体験を生かして道徳の時間で価値を深められるように工夫した。

##### ⑤ 環境整備(教室に道徳コーナーの設置と通信に道徳コメントの掲載)

各教室には「道徳コーナー」を設置し、道徳的な標語や作品を掲示した。それらを目にすることによって、道徳的な心情を温めることができた。また、道徳の授業の感想や考えを掲示し、クラス全体への共有化や振り返りを図った。

さらに、生徒の道徳の感想を学級通信や学年通信に可能な限り掲載していった。お互いの考えに触れることによって考えに幅ができたり、お互いを認め合ったりできたという観点からも大変有効であった。



教室の道徳コーナー



学年通信「命の大切さ」

⑥教材・教具の共有化（道徳の授業で使う場面絵や短冊など）研究課題⑧



全担任がよりよい授業展開のために作成した教材教具を共有化するために、場面絵などを保管しておく場所を整備した。また、ワークシートはデータ化して、自由に使用できるようにした。このことで教材・教具作成の時間が削減されると共に、お互いそれらを使うことによって、さらに使いやすく、より生徒の心に響くものを作成していこうという雰囲気ができてきた。今年度作成された教材教具を保存するケース・教具等は、来年度以降も有効に使われていくことと思われる。

⑦「道徳の授業 振り返りアンケート」の実施 研究課題⑧

授業で扱うワークシートに次のような項目の振り返りアンケートを添付した。

- ①今日の授業は自分のためになりましたか？
- ②今日の授業で新しい発見がありましたか？
- ③今日の授業は楽しかったですか？
- ④今日の資料は心に残りましたか？

担任はアンケートの集計をし、学年ごとのフォルダに入力していった。アンケートの集計結果をもとに、学年道徳研究部会で授業の反省や振り返りをするとともに、使った資料が生徒の心に迫るものであったかどうか検証することができた。

⑧生徒の主体的・自治的な活動の活性化 研究課題①

「こんな中学生になりたい」（生徒向けアンケート）、「こんな中学生になって欲しい」（保護者向けアンケート）を実施した。その結果を集計し、『めざす中学生』という形でまとめた。

めざす生徒像

- 自分の考えを表現する中学生
- 人の心をあたたくする中学生
- 心身をきたえる中学生

これらの言葉を生徒玄関に掲げ、常に生徒の目に触れるようにした。また、生徒会活動の各委員会ごとに、3つの中から1つのめざす生徒像を決定し、その目標に向けて各月の活動計画を作成した。



生徒玄関に掲示した「めざす生徒像」



オアシス委員会の「ありがとうキャンペーン」

⑨ 授業の充実 研究課題⑧，⑩，⑯

指導者の授業力を高めるために、1週間に1回、放課後に1時間程度の時間を確保し、学年の教員が集まり次時の道徳の授業について考えていった。

そして、学習過程（略案）をもとに、ねらいの確認や中心発問・補助発問の検討、導入のしかたなどが話し合われた。

⑩ 各部会による取り組み

授業研究部会での取組 研究課題⑦、⑧

授業研究部においては、「週1時間の道徳の時間の指導をどう充実させるか」、「生徒の心に響く道徳の授業をどうつくるか」を研究の中心に置き、実践を交えながら取り組んできた。

他の教育活動を通じて行う指導の研究部会での取組 研究課題⑩

学校行事や学校の日常的な生活の場面を生かして生徒の道徳性をはぐくむため、道徳年間指導計画の作成・修正と学校行事等との関連を図った道徳教育のあり方を構想した。

連携推進・環境整備部会での取組 研究課題⑯

家庭や地域との連携協力や教室等校舎内の環境面の工夫により、道徳性を育むための具体的な方法について研究を深めた。



廊下に掲示した生徒の道徳標語



給食委員会作成の掲示物

また、PTA活動の一環である奉仕活動には保護者と3年生とが一緒になって活動し、学校をきれいにして気持ちよく学べる環境を作ろうと共に汗を流した。



5 取組についての評価および課題

本校では、文部科学省の指定を受け道徳教育の充実をめざして、研究に取りんできた。道徳教育は学校の教育活動全体に関わることであり、単に道徳の授業だけを研究すればよいというものではない。道徳的な価値を自覚させ、道徳的実

践力を育成することを目標として道徳教育を研究していかなければならない。

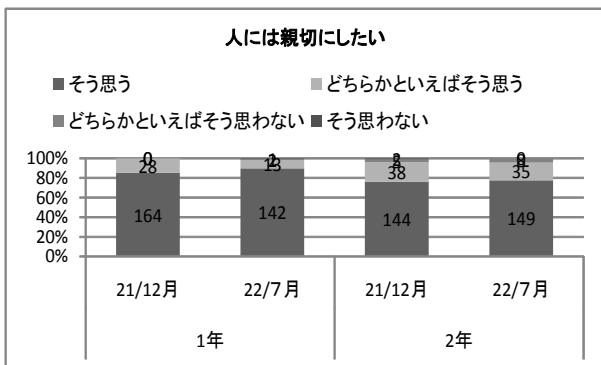
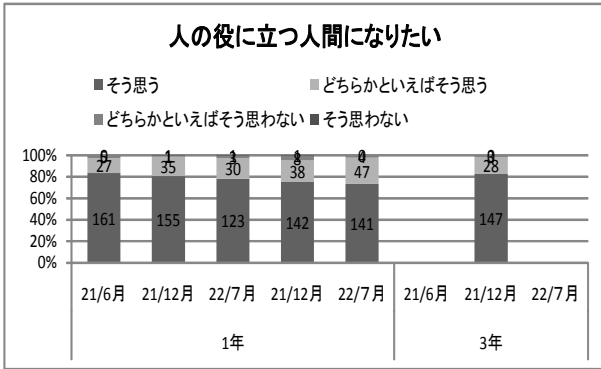
本校は研究主題を「豊かな心を持ち、主体的に行動する生徒の育成」と定め、道徳の授業のみならず、各教科、総合的な学習の時間および特別活動との密接な関連を図りながら研究主題を達成するための方策を実践してきた。

生徒の道徳性を計るために文部科学省が実施している「児童生徒の意識調査」を実施した。2年間の取組に対して生徒の道徳性の変容を考察するために、今年度7月にも同じ項目でアンケートを実施した。研究主題の「豊かな心」についての質問項目と考えられる「人の気持ちがわかる人になりたい」、「人には親切にしたい」を取り上げて考察を行った。平成21年度の1年生と2年生を比べるとどの項目も数値は学年が上がると減少する傾向がある。これらの数値が減少することは生徒の発達段階を考えると思春期特有の現象と捉えることができよう。

しかし、現在の2年生の数値は、昨年度の2年生の数値より上昇している。このこ

とは、2年間の取組みをとおして、道徳的心情が育まれたことを表している。また、「主体的に行動」という観点に対しては生徒会活動、日常の当番活動や奉仕的な活動、部活動における生徒のようすから考察ができる。学校生活の多くの場面において、リーダーを中心として生徒が熱心に活動している姿が多く見受けられ、生徒たちが自分で状況を認識し、何をすべきか判断し、自分たちで行動していこうという心構えが育まれていると思われる。

例えば、内容項目「1-(1)望ましい生活習慣」に関して例をあげてみたい。本校には生徒会活動の一環として取り組んできている、伝統のある『オ（おはよう）ア（ありがとう）シ（しんせつ）ス（すみません）運動』がある。校舎内では「こんにちは」という気持ちのよい挨拶がいつでも聞くことができる。また、授業中でも「ありがとう」の声をよく耳にすることができる。生徒会役員が毎朝生徒玄関に立ち挨拶を呼びかける啓発活動も盛んである。このことは道徳の時間での取組み、他の教育活動との関連における取組みや部活動での指導の成果と言えるのではないだろうか。コミュニケーションの基本である挨拶がごく自然になされるようになったことや、相手に感謝の気持ちを伝えることばを心を込めて言えるようになってきたことはこの2年間の大きな成果であると言える。



校門前にあるオアシスの石碑



生徒会 朝のあいさつ運動

2年間にわたる道徳教育の充実について研究を進めてきた中で、次のような効果も見えてきた。

まず、資料の扱いについての取組についての成果をあげてみたい。新しい学習指



導要領解説編 p.90～において道徳の時間の可能性を拓く7つの構想例に示されている。本校においては「多様な読み物資料を生かした指導」を中心に捉え、読み物資料の効果的な活用について研究を深めることとした。生徒の心を揺さぶり、生徒の心の琴線に触れるような資料の開発や開拓、また中心発問の在り方について全職員で協議し、具体的な授業構想については学年授業研究会が担当していった。

次に、道徳教育の指定を受けてから、道徳の時間の指導に活かせるような話し合いが自然な形で職員室においてできるような環境作りを進めてきた。全学年道徳の授業を統一し、毎週放課後学年研究会を開いて、授業案の検討などを継続してきた。

ともすれば、「道徳の授業」というものはクラスごとに孤立してしまったり、担任にとって負担の大きいものでありがちであった。

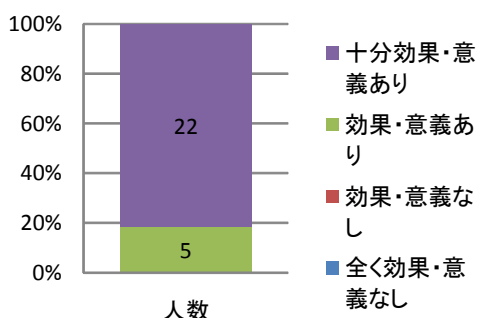
しかし、形だけではなく実質的なものとして道徳の時間が確立され、職員室でも資料についての話題も自然な形で出るようになった。

これらの取り組みにより、教師の授業力が向上し、生徒は落ち着いて資料に向かい、自分の考えを深め、さらに、仲間の意見にも耳を傾けるようになってきた。自分以外の周りの仲間を認め、尊重し合える温かな人間関係がしっかりと根付いてきている。放課後の定例授業研究会は、時間的に負担が大きかったが、他の教員から指導方法や展開について学ぶことが多く、効果・意義ありとの回答が多かった。

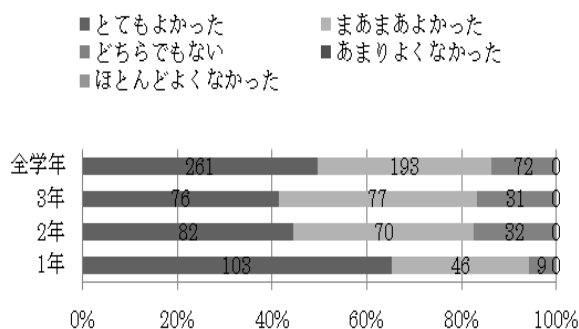
効果・意義ありとの回答が多かった。

道徳の授業をとおして、人間関係が良くなったことについては、1学期末に実施した「道徳の授業に関するアンケート」からも読み取ることができる。「仲間の意見を聞いたこと」に対して86%の生徒がよかったとの回答をしており、周りの意見に耳を傾け、その意見も尊重していこうということが読み取れる。そして、「道徳の授業を受けてよかったか」という質問に対して84%の生徒が肯定的な回答をしており、86%の生徒が道徳の授業の必要性感じている。

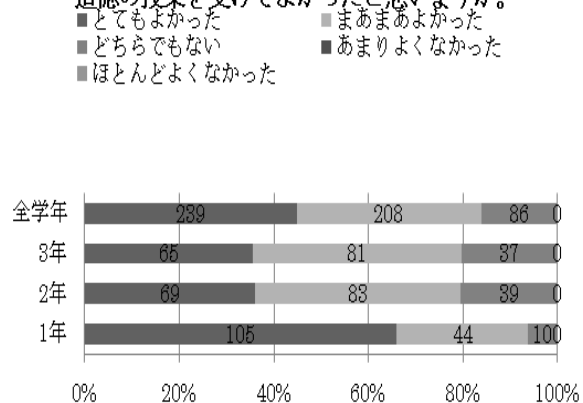
放課後の授業研究会について



道徳の授業を受けて、仲間の意見を聞いたことをどう思いますか。



道徳の授業を受けてよかったと思いますか。



2年間の研究実践を通して、道徳の授業をするにあたって、多くの資料にあたり、よりよい授業をめざして検討を重ねてきた。その取り組みの中で、道徳の授業を「やらなくてはいけない」から「やってみよう」となり「よしやっといこう」という心構えに変わっていった。今後は、この道徳の授業を継続してやっといこうという雰囲気大切に、解説編に示されている「多様な学習指導」の構想案にも柔軟に対応して取り組んでいきたいと考える。

また、2年間で研究した「資料の活用を通して生徒の心を揺さぶる指導」についてこのことを財産としてさらに発展させていきたい。生徒たちが「主体的に学び合い」「学びの中心となる」学習の場の設定と、その有効的な活用をこれからも推進していきたい。